

時流に流されず
自流で生きる



株式会社名古屋銀行
代表取締役会長

加藤 千磨氏
(かとう かずまる)

私は1938年(昭和13年)に、当時の関東州大連市で生まれました。遼東半島の先端近くに位置するのが大連市。大連旅順は関東州と言い、それより北に位置する遼寧省、吉林省、黒龍江省を満州と呼んでいました。

関東州は日本の租借地、いわゆる日本の領土です。満州は日本を含めた五民族で作った国です。私は父親の關係で、九歳まで大連にいました。

第二次世界大戦の敗戦を外地で小学校二年生の時に迎え、当時のソ連側に拘束され、一年半は帰国できず、一歩間違えば残留孤児になるところでした。昭和22年2月に母親に連れられて苦勞しながら佐世保に引き揚げてきました。引き揚げ船に日の丸の旗を見た瞬間が、これまで経験したなかで最大級の光明でした。子供ながらに日本の国に守られたと感じ、強い愛国心が生まれました。

しかし、父の故郷である岡崎市の近くの下山村に辿り着いた途端に、私は大変なカルチャーショックを

受けました。終戦前の大連での豊かな生活に比べて、戦後の日本での田舎暮らしは格段の差がありました。大連時代を含めて、私は小学校を三回転校しましたが、後年私の人間形成、生きる上でのキーワードともなりました「環境変化への対応力」は波瀾万丈な小学校時代に身についたと確信しています。

また、日本はこのときの歴史観を含め、全ての価値観が大きく転換しました。私たちの金科玉条に思われていたことが全く価値のないものになったのを見た世代です。この経験は私にとって大きなものになりました。

価値とは絶対的なものではなく、時代により変化することを教えられたからです。私はこうした体験を持ったため、常に時流に流さず自分の頭で考える「自流」で時代の価値を計ることにしています。

多くの人々に助けられたことで、社会や他人に対して、自分に何ができるかということを考えることにしています。

著作権の關係上、表示できません。